

グリーンボンド / グリーンボンド・プログラム 外部レビューフォーム

セクション1. 基本情報

発行体名:	Vena Energy
グリーンボンド又は フレームワークの名称	Vena Energy グリーンファイナンス・フレームワーク
外部レビュー者名:	株式会社 日本格付研究所
本フォーム記入日:	2019年9月18日
レビュー公表日:	2019年9月18日

セクション 2. レビューの概要

レビュー対象

本レビューでは、以下の要素について審査し、グリーンボンド原則との適合性を確認した。:

- | | |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 資金使途 | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトの評価と選定プロセス |
| <input checked="" type="checkbox"/> 資金管理 | <input checked="" type="checkbox"/> レポーティング |

ROLE(S) OF Independent External REVIEW PROVIDER

- | | |
|------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> セカンドオピニオン | <input type="checkbox"/> 認証 |
| <input type="checkbox"/> 検証 | <input checked="" type="checkbox"/> スコアリング/格付け |
| <input type="checkbox"/> その他: | |

注:複数のレビュー、異なる提供者がいる場合、レビューごとに個別のレビューフォームを提供してください。

レビューのサマリー 及び 評価レポート全文へのURLリンク

Vena Energy（当社）は、シンガポールに本社を置き、アジア太平洋地域において太陽光、風力発電事業を行うプロジェクト会社に出資する法人である。Vena Energy や傘下のプロジェクト会社を含むグループ全体（Vena Energy グループ）の連結総資産は18年末で56.1 億米ドルに上り、アジア太平洋最大の独立系再生可能エネルギー発電事業者（IPP）となっている。12 年の設立以来、アジア太平洋各国の太陽光、風力発電事業に積極的に参入しており、高い事業運営能力の下、18 年末時点で7 カ国において出力合計2GW 超の太陽光および風力発電所を傘下のプロジェクト会社を通じて保有している。世界有数の独立系インフラ投資ファンドである Global Infrastructure Partners（GIP）が18 年にVena Energy の前身であるEquis Energy を買収し、現名称に変更の上、Vena Energy グループのメインスポンサーとなっている。買収にあたっては、カナダ最大の年金基金の一つであるPublic Sector Pension Investments（PSP）、中国の政府系ファンドであるChina Investment Corporation（CIC）の3 者からなるコンソーシアムが形成された。コンソーシアムの出資比率は非公表であるが、GIP の出資比率が過半数を占める。

今般の評価対象は、債券又は借入金等の手段により調達する資金を、環境改善効果を有する資金用途に限定するために、Vena Energyが定めたグリーンファイナンス・フレームワークである。当該フレームワークがグリーンボンド原則（2018年版）、グリーンボンドガイドライン（2017年版）及びグリーンローン原則に適合しているか否かの評価を行う。

当社が定めたグリーンファイナンス・フレームワーク（以下、「本フレームワーク」）では、グリーンボンド又はグリーンローンで調達した資金は、1.太陽光発電、2. 洋上・陸上風力発電、3. 水力発電（15MW未満の小規模水力の新設又は20MW超の既存の大規模水力発電の改修）に対する新規投資及びリファイナンスに充当される予定である。JCRでは、当該資金用途は、再生可能エネルギーとして脱炭素化に資するグリーンプロジェクトであり、環境改善効果が高いと評価している。上記発電施設建設、運営に際して想定される環境社会面への負の影響については、IFC Performance 基準 等の国際基準に準拠し、最小化する体制を確保していることから、負の影響が環境改善効果を上回る蓋然性も低い。

当社はグリーンプロジェクトの選定基準や実際の選定、レポーティング等を監督するサステナビリティ委員会を設立したこと、調達した資金を別口座で分別管理し、充当計画レポートを国別・資産別に毎年公表予定であること、インパクトを測るKPIについても適切な設定がなされていることから、JCRでは当社が強固な管理運営体制を構築し、グリーンボンド・グリーンローンに関して高い透明性を有していることを確認した。

この結果、今回の評価対象となるグリーンファイナンス・フレームワークは、JCRグリーンファイナンス評価手法に基づき、「グリーン性評価（資金用途）評価」を“g1(F)」、「管理・運営・透明性評価」を“m1(F)”とした。この結果、「JCRグリーンファイナンス・フレームワーク評価（総合評価）」を“Green1(F)”とした。また、本フレームワークはグリーンボンド原則、環境省によるグリーンボンドガイドラインおよびグリーンローン原則において求められる項目について基準を満たしているとJCRは評価している。

評価レポート全文へのURLリンクは以下をご参照。

<https://www.jcr.co.jp/greenfinance/>

セクション 3. レビューの詳細

レビュー者は、できる限り以下の情報を、コメントの枠を使用し、できる限り提供することが推奨される。

1. 資金使途

本項目に係るコメント欄：

a. プロジェクトの環境改善効果について

i. 資金使途として本フレームワークで掲げられたグリーン適格事業は、太陽光発電、風力発電及び水力発電事業などの再生可能エネルギー事業であり、環境改善効果が高い

ii. 資金使途は、グリーンボンド原則、グリーンローン原則または環境省のグリーンボンドガイドラインに定義されているグリーンプロジェクトのうち、「再生可能エネルギー」に該当する。

b. 環境に対する負の影響について

当社は、IFC Performance Standardで定める8つの基準に基づき、個々の事業について持続可能な開発を行うためのリスク評価・管理を行っている。当社ではまた、IFC パフォーマンス基準及び世銀グループが策定している環境健康社会ガイドライン（Environment, Health, Social Guidelines）に基づき、環境面のみならず労働者の安全面にも十分な配慮を行っている。この中には、廃棄物処理基準や台風等の緊急時対策もプロジェクトベースで適切に計画されている。また、リスク評価・管理の実務に係る環境社会責任方針(ESR方針)を定め、その中でシニアマネジメント、マネージャー、監督者、及びスタッフ等の責務が明確に定められている。

このように厳格なデューデリジェンスと案件監理におけるリスク管理が徹底されている結果として、当社が開発・運営している発電事業所において、評価の時点で係争その他問題が発生しているサイトは1か所もないことをJCRはヒアリングで確認している。

GBPにおける資金使途の分類:

- | | |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 再生可能エネルギー | <input type="checkbox"/> エネルギー効率 |
| <input type="checkbox"/> 汚染防止及び管理 | <input type="checkbox"/> 生物自然資源及び土地利用に係る環境持続型管理 |
| <input type="checkbox"/> 陸上及び水生生物の多様性の保全 | <input type="checkbox"/> グリーン輸送 |
| <input type="checkbox"/> 持続可能な水資源および廃水管理 | <input type="checkbox"/> 気候変動への対応 |
| <input type="checkbox"/> 高環境効率商品、環境適応商品、環境に配慮した生産技術及びプロセス | <input type="checkbox"/> グリーンビルディング |
| <input type="checkbox"/> 発行時点では明らかでなかったが、現時点においてGBP分類に該当することが予想される、または、まだGBP分類に含まれていないが適格グリーンプロジェクト分野と思われるもの | <input type="checkbox"/> その他 |

GBP以外のタクソミー(プロジェクト分類)を使用している場合はそれを特定すること。:

2. プロジェクトの評価と選定プロセス

本項目に係るコメント欄:

発行体は資金用途について、明確な環境面での目標、プロジェクトの選定基準およびプロセスを定めている。当該事項は、JCRによる評価レポートの中で開示されている。

評価と選定

- | | |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 発行体の環境面での持続可能性に係る目標が定められている | <input checked="" type="checkbox"/> 対象事業が選定基準分類に適合していることを決定するプロセスが文書化されている |
| <input checked="" type="checkbox"/> グリーンボンドの資金用途としての適格プロジェクト基準が定義され、透明性が確保されている | <input checked="" type="checkbox"/> 事業実施に伴うESGRリスクの可能性が特定され、管理されるプロセスが文書化されている |
| <input checked="" type="checkbox"/> 事業の評価と選定基準の概要が公表されている | <input type="checkbox"/> その他 |

責任及びアカウンタビリティに係る情報

- | | |
|---|------------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 評価・選定基準は外部からのアドバイスまたは検証を受けている | <input type="checkbox"/> 社内で評価している |
| <input type="checkbox"/> その他 | |

3. 調達資金の管理

本項目に係るコメント欄:

当社では、グリーンボンド又はグリーンローンで調達した資金を別口座で管理することで、グリーン適格事業以外の資金用途と明確に管理が分けられている。また、口座の入出金記録を使って追跡管理が確実に行われることから、透明性の高い管理方法であるとJCRでは評価している。

また、グリーンファイナンスによって調達された資金の対象資産に対する充当状況は、第三者による監査の対象となっており、適切に保管される体制となっているほか、仮に一部のグリーンプロジェクトから投資を引き揚げた場合には新たなグリーンプロジェクトに再充当するか、或いは、グリーンボンド・ローン残高の減額によりバランスを維持する予定としているなど、償還期間までの資金管理体制が明確に規定されている。

JCRでは、上記の確認の結果、当社の資金管理の妥当性及び透明性は高いと評価している。

調達資金の追跡管理:

- | |
|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> グリーンボンドの調達資金は分別管理され、または適切な方法で発行体によって追跡管理されている。 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 未充当資金の一時的運用方法について、開示されている。 |
| <input type="checkbox"/> その他 |

追加開示事項:

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 新規投資への充当のみ | <input type="checkbox"/> 既存・新規投資両方への充当 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 個別の支出に充当 | <input type="checkbox"/> ポートフォリオベースの支出に充当 |
| <input type="checkbox"/> 未充当資金のポートフォリオバランスを開示 | <input type="checkbox"/> その他 |

4. レポーティング

本項目に係るコメント欄：

a. 資金の充当状況に係るレポーティング

資金充当状況レポーティングについて、国別、資産別に詳細な充当状況のレポーティングが予定されている。

b. 環境改善効果に係るレポーティング

インパクトについても、定格容量と発電実績のほか、電力供給により裨益する世帯数についてもインパクトの公表が予定されている。これらの開示項目及び開示の頻度は、グリーンボンド原則、グリーンローン原則及びグリーンボンドガイドラインに照らし、適切であるとJCRでは評価している。

資金使途のレポーティング：

- | | |
|---------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 個別プロジェクト・ベース | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトのポートフォリオ・ベース |
| <input type="checkbox"/> 個別債券への紐づけ | <input type="checkbox"/> その他 |

レポーティング情報：

- | | |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 充当金額 | <input type="checkbox"/> 投資額に占めるグリーンボンドによる資金充当の割合 |
| <input type="checkbox"/> その他： | |

頻度：

- | | |
|--|--------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 年に一度 | <input type="checkbox"/> 半年に一度 |
| <input type="checkbox"/> その他： | |

インパクトレポーティング：

- | | |
|---------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 個別プロジェクト・ベース | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトのポートフォリオ・ベース |
| <input type="checkbox"/> 個別債券への紐づけ | <input type="checkbox"/> その他 |

頻度：

- | | |
|--|--------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 年に一度 | <input type="checkbox"/> 半年に一度 |
| <input type="checkbox"/> その他： | |

レポーティング情報（理論値または実績値）：

- | | |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> GHG 排出量 / 削減量 | <input type="checkbox"/> エネルギー削減量 |
| <input type="checkbox"/> 水使用削減量 | <input checked="" type="checkbox"/> その他ESG指標
設置した定格容量 |

開示方法

- 財務諸表における公表 サステナビリティレポートにおける公表
- アドホック（非定期）発行物における公表 その他:

有用なリンク

Venaのサステナビリティに対するコミットメント（英語） <https://www.venaenergy.com/our-commitments/>

JCRのグリーンファイナンス評価手法 <https://www.jcr.co.jp/greenfinance/>

外部レビューを受けた場合、その種類

- セカンド・オピニオン 認証
- 検証 スコアリング/格付け
- その他:

レビュー提供者: 株式会社 日本格付研究所

公表日: 2019年9月18日

グリーンボンド原則に定められた、独立レビュー業者の役割

1. **セカンド・パーティ・オピニオン**：環境に関する専門知識を持ち、発行体から独立した機関は、セカンド・パーティ・オピニオンを出すことができる。そのような機関は、グリーンボンドフレームワークに関する発行体のアドバイザーからの独立性や、情報障壁など適切な手順を機関内に設け、セカンド・パーティ・オピニオンの独立性を保証することが必要である。セカンド・パーティ・オピニオンは通常グリーンボンド原則への準拠に関する評価を伴い、特に、発行体の包括的な目標、戦略、環境に関する持続可能性に関する方針および（または）プロセスおよび資金使途となるプロジェクトの環境に関する持続可能性の評価が含まれる。
2. **検証**：発行体は、ビジネスプロセスに関するおよび（または）環境基準についての設定された基準に関する第三者検証を受けることができる。検証は内部または外部基準または発行体による目標に沿っているかにフォーカスする。また、対象資産の環境に関する持続可能な特徴の評価は"検証"と呼ばれ、外部基準を参照することができる。発行体の資金管理、グリーンボンドによる調達資金の配分に関する内部追跡システム、環境へのインパクトまたは、グリーンボンド原則への準拠に関する保証または証明も"検証"と呼ぶことができる。
3. **認証**：発行体は、グリーンボンドフレームワークに関連したグリーンボンドまたは資金使途は、認識されている外部グリーン標準・ラベルの認証を受けることができる。標準またはラベルは、特定の基準を定義し、その定義は認証基準に沿っているかを証明できる能力を有し、認定された第三者機関によって、その基準に沿っているかどうかを検査される。
4. **グリーンボンドスコアリング・レーティング**：発行体は、グリーンボンドフレームワークに関連したグリーンボンドまたは資金使途は、スコアリング・レーティング手法を有している専門調査会社や格付機関といった第三者によって評価もしくは調査されることができる。成果物は、環境改善のデータ、グリーンボンド原則に準じたプロセスまたはその他2度目標などのベンチマークにフォーカスしたものが考えられる。スコアリング・レーティングは、重要な環境リスクを反映しているとしても信用格付とは明確に異なる。